

2026 年度事業計画書

2026 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 TEDIC

1. 基本方針

2025 年度に引き続き、石巻市や宮城県からの委託、助成金などを活用し、生活困窮世帯の子どもたちの学習・生活支援や相談センターの開設、子ども・若者の居場所づくり、地域とのつながりづくり、研修などを実施する。

2. 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数 (予定)	受益対象者 ／予定人数	事業費見込 (千円)
子ども・ 若者支援 事業	石巻市生活困窮世帯の子 どもの学習・生活支援事 業業務 (石巻市委託)	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市内 6 拠点	9 名	石巻市内に住む生活困窮 世帯の子ども（高校生年 代まで） 120 名	28,743
	石巻圏域子ども・若者総 合相談センター事業等委 託業務 (宮城县委託)	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市 東松島市 女川町 登米市 気仙沼市 南三陸町	6 名	石巻圏域に住む 0～39 歳 の子ども若者年代及びそ の家族等 新規：60 件 相談延べ件数：1000 件	12,920
	逃げられる・頼れる 石 巻若者セーフティネット 事業 (休眠預金活用支援事 業)	2026 年 4 月～ 2029 年 2 月	石巻市	3 名	家庭内での暴力や搾取的 な関係を経験し、他者を 頼ることができず、就 労・居住の両面で不安定 な 18 歳以降の若者：180 人（若者）	5,995
	地域でつながり伴走する アウトリーチ支援 (WAM 助成補正予算事 業)	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市 東松島市 女川町	3 名	石巻圏域内生活困窮世帯 や孤立状態にある子ど も・若者(360 世帯)	5,227

定款の 事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数 (予定)	受益対象者 ／予定人数	事業費見込 (千円)
子ども・ 若者支援 事業	子どもたちを地域で支える居場所事業 (独立行政法人福祉医療機構 こどもの未来応援基金)	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市	2 名	石巻市の小学校～高校生世代の子ども、中でも学校に通っていない子ども (20 人程度) 石巻市内在住の不登校児童生徒 小学生 192 名、 中学生 401 名 レインボーハウス： 石巻市内在住の 5 歳～19 歳男女：14,818 名 (令和 6 年のデータ)	4,000
	ほっとんち (赤い羽根共同募金)	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市	0 名	近隣の小学校～高校生世代の子ども、中でも学校に通っていない子ども (20 人程度)	1,549
	子ども・若者が昼も夜も安心して過ごせる地域づくりプロジェクト (ハタチ基金)	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市	4 名	蛇田拠点：近隣の小学校～高校生世代の子ども、中でも学校に通っていない子ども (20 人程度) 駅前拠点：石巻市の子ども・若者 (50 人程度) 中央拠点 (レインボーハウス)：石巻の小学生～高校生世代の子ども (200 人程度) 研修：子ども・若者支援に関心がある地域の市民、地域の関係団体、行政職員など (100 人程度)	7,500

定款の 事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者 ／予定人数	事業費見 込(千円)
研修事業	研修視察	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	全国及び オンライン	0 名	子ども若者支援に関 心がある方：のべ 120 名	※上記予 算内で実 施
普及啓発 事業	ボランティアサポーター 養成研修（一般市民向け 研修）	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市	0 名	ボランティアサポー ター登録者：24 名	※上記予 算内で実 施
	講演	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	全国	0 名		※上記予 算内で実 施
	レインボーハウスから始 まるこころをケアするま ちづくり	2026 年 4 月～ 2027 年 3 月	石巻市	0 名		※上記予 算内で実 施
その他	なし					

石巻市生活困窮世帯の子どもの学習・生活支援事業業務（石巻市委託）

スタッフ

統括責任者兼相談責任者：津富
事業責任者：大庭
支援員：杉山、古市、安杖、佐藤順子、新規採用スタッフ 1 名
事務スタッフ：高橋、小出

予算

28,743,460 円（石巻市）

目的

- (1) 生活保護受給世帯を含む生活困窮世帯の子ども（以下、「子ども」という）に対し、学びの場、安心安全な場、多様な価値に触れられる機会を保障することで、子どもが本来持っている力を引き出す。
- (2) 保護者を含む世帯の状況に応じて、必要な社会資源の紹介、つなぎ支援を実施することで子どもの育つ環境を整える。
- (3) 本事業への市民の参加を積極的に促すことで、子どもの育ちを見守る、子どもの応援者を増やす。

活動内容

拠点型（6 拠点）、訪問型での学びの支援・生活支援
保護者や家族への助言・相談支援、関係機関との連携支援

石巻圏域子ども・若者総合相談センター事業委託業務（宮城県委託）

スタッフ

統括責任者（センター長）兼相談責任者：津富
事業責任者：千葉
相談員：橋浦、阿部沙綾、新規採用スタッフ 1 名（気仙沼勤務）
事務スタッフ：佐藤

予算

12,920,799 円（宮城県）

目的

「子ども・若者育成支援推進法」（平成 21 年法律第 71 号）の趣旨に基づき、子ども・若者の様々な相談に対して関係機関と連携した総合相談窓口を設置し、制度の縦割りや年齢の切れ目によらず、相談機会や必要な情報の提供を行い、適切な社会資源や場につなぐ育成支援拠点の体制を確保する。

活動内容

- (1) 総合相談窓口の設置・来所、電話及び電子メール等による相談対応を行うこと。
- (2) 相談者対応・相談内容に応じて必要な情報の提供及び助言を行うこと。

(3) 出張相談会の開催・各市町の状況に応じて出張相談会を開催すること。・開催時期や開催回数等については、発注者と受注者が協議して決定すること。

(4) 各関係機関等へのつなぎ支援・相談内容に応じて、各関係機関等に適切につなぐこと。

(5) 相談の記録・管理・相談内容を適切に記録し、個人情報の取扱いについても適切に管理すること。

(6) 実施状況報告・受注者は、毎月、別に定める実施状況報告書を作成し、翌月10日までに発注者へ提出すること。・受注者と発注者は、原則として、実施状況報告書提出後、打合せを行うものとし、連絡事項等を相互に共有すること。・受注者は、委託業務完了後、速やかに業務完了報告書等を作成し、発注者へ提出すること。

(7) センターの広報・周知・センターについて、対象者へ様々な方法を用いて周知すること。

報告

実施状況報告

受注者は、毎月、別に定める実施状況報告書を作成し、翌月10日までに発注者へ提出。年度末は年次報告書を提出。

逃げられる・頼れる 石巻若者セーフティネット事業

スタッフ

事業責任者：千葉

スタッフ：新規採用スタッフ2名

事務スタッフ：高橋（事務）

予算

5,995,638 円（休眠預金活用支援事業 資金分配団体：ユニバーサル志縁センター）

目的

制度の狭間に置かれ、経済的困難や孤立を抱える18歳以降の若者を対象に、若者が搾取されることなく安心して暮らすために、10要素すべてを含んだ伴走支援を展開できる地域をつくること、若者が逃げることができ「頼ってよかった」と感じられる関係性を構築することを目的とする。

具体的には、①若者に伴走できる大人の育成、②伴走する大人と若者との関係形成、③暮らしに必要な物品の提供、④住まいの提供、⑤公的機関の利用や就労に向けた伴走支援を段階的に行う。同時に、こうした若者の苦境について地域や関係者に向けて積極的な啓発活動を行うとともに、自治体と連携して地域ネットワークを形成して地域資源を可視化・活用し、若者支援のためのコモンズ（地域アセット）を構築する。

活動内容

- ① 相談につながるきっかけづくり、相談・伴走支援を継続する関係づくり
- ② 若者と伴走者の関係形成

- ③ 緊急時の安全な住まいの確保
- ④ 居場所で大人とつながる機会づくり、居場所で挑戦する意欲の醸成
- ⑤ 必要な支援や制度へのアクセス支援
- ⑥ 生活に必要な物品の提供
- ⑦ 若者の主体性を尊重した伴走支援
- ⑧ 就労への不安の軽減、理解ある就労先との出会いの創出
- ⑨ 伴走者の育成、伴走者ネットワークの構築
- ⑩ 若者の実態の把握（調査）、若者の実態の社会への発信、若者施策への提言と反映

地域でつながり伴走するアウトリーチ支援～皆が助かる石巻～

スタッフ

事業責任者：千葉
 相談員：新規採用スタッフ2名
 事務スタッフ：中村

予算

5,227,647 円（WAM 助成補正予算事業）

目的

石巻圏域を中心に、これまで支援につながってこなかった生活困窮世帯や孤立状態にある子ども・若者、保護者と出会い、食料や生活用品の配布を入口とした生活支援及び就労支援を行う。食料配布を通じて、就労や生活上の困りごとを抱えながらも相談先が分からない世帯と繋がり、支援の必要性を把握してきた。制度は知っていても申請手順が分からず利用に至らない状況を踏まえ、制度や手続きの流れを分かりやすくまとめた冊子を作成・配布する。また、事業を通じて出会ったボランティアと連携して、地域での食料配布会の実施を行い、その場で身近な伴走による生活支援・就労支援に繋げ、安心して暮らし続けられる地域づくりを目指す。

活動内容

- ① 制度的支援の見える化による支援のハードル低減
- ② 食料・生活用品配布を通じたアウトリーチ支援の拡充
- ③ ボランティアとの協働による地域伴走体制の構築

報告

TEDIC の事業報告会にて事業報告を実施
 助成期間終了後に報告書を提出

子どもたちを地域で支える居場所事業

スタッフ

事業責任者：奥山
 スタッフ：阿部望、吉野

予算

4,000,000 円（独立行政法人福祉医療機構 こどもの未来応援基金）

目的

子どもたちが居場所に来ることで地域と繋がれ、そこに関わる地域の人たちも子どもたちと繋がり、子どもたちを地域の大人で支える居場所づくりを目的とする

活動内容

- ① 子どもと大人の顔の見える関係性作り
- ② 保護者同士のつながりを作る
- ③ ほっとんち（昼間の居場所の愛称）の開設

報告

事業報告書作成

石巻市や学校、児童相談所、警察、他団体などの関係機関へ配布。または HP にも掲載する。

ほっとんち

スタッフ

事業責任者：奥山

予算

1,549,000 円（赤い羽根共同募金 テーマ型募金みやぎチャレンジプロジェクト）

目的

- 1 不登校や学校に通いづらさを抱える子どもたちに対する居場所提供
- 2 子どもたちを支える社会関係資本の蓄積
- 3 地域コミュニティの形成とウェルビーイングの向上
- 4 個々の子どもやその世帯、さらには、地域住民が抱える問題の解決

活動内容

- ① 子どもの居場所運営
- ② 学習支援・生活支援
- ③ 地域交流活動・体験プログラム
- ④ 相談・情報発信

報告

TEDIC の事業報告会にて事業報告を実施
助成期間終了後に報告書を提出

子ども・若者が昼も夜も安心して過ごせる地域づくりプロジェクト

スタッフ

事業責任者：奥山

スタッフ：林、杉山、新規採用スタッフ 1 名

予算

7,500,000 円（公益社団法人ハタチ基金）

目的

子ども・若者が安心して過ごせる場を地域にひらき、困難を抱える前、または抱えた際に「困っている」と声をあげられる環境を整えることを目的とする。子ども・若者や保護者が孤立することなく、自身の気持ちや状況を受け止めてもらえる関係性を築くことで、問題が深刻化する前に必要な支援につなげることを目指す。

また、子ども・若者が地域の大人と日常的に関わり、共に考え、対話し、課題解決に取り組む経験を重ねることで、「一人で抱え込まなくてよい」「困ったことがあれば〇〇さんに聞いてみよう」と、実際に困ったときに地域の大人の顔が自然と思い浮かぶ関係性を育む。

これにより、子ども・若者自身が自分の状況を言葉にし、助けを求められる環境を用意するとともに、地域全体で子ども・若者を支える土壌を形成し、安心して成長できる地域づくりを進める。

活動内容

石巻市の子ども・若者が無償で安心して過ごせる場を開設し、地域の大人と子ども・若者が交じり合う地域づくりの拠点として、市内3か所で事業を展開する。地域密着の場づくりとして、日常的な居場所機能を担う蛇田拠点・駅前拠点を開設して個々の子ども・若者に寄り添った支援を行う。あわせて、石巻市域全体を意識した場づくりとして中央拠点を設け、地域課題の共有や連携を促進する。さらに、子ども・若者を見守り支える大人が現状や課題を共有する勉強会を定期的に開催し、地域全体で問題を捉え、解決していく力の向上を図る。

①蛇田拠点：「ほっとんち蛇田」の開設・運営(週4回)

蛇田拠点の開放を通して、子ども・若者が地域の住民と出会い、関わる機会を重ねながら、子どもたちにとって学校や家庭以外で「いるだけ・いられるだけ」の安心・安全な居場所を定着させる。

②駅前拠点「ほっとんち駅前」の開設・運営(週3回)

駅前拠点の開放を通じて、子ども・若者が地域の大人と出会う機会を創出し、子ども・若者と地域の大人をつなぐとともに、地域の大人の出番を増やすことを促進する。

③中央拠点（仮）「子ども・若者を支えるネットワーク」(月2回)

石巻市の子ども・若者に関わる団体や企業、行政などが連携して、誰でも利用できる拠点を運営し、子どもたちを関係団体が協力して支える体制をつくる。

④地域連携のための勉強会(年8回)

子ども・若者を支援する団体や個人が連携していくために、勉強会を定期的に開催し、地域全体で問題を捉え、解決する力を高める。

⑤サポーター養成研修(年2回)

ふだんの暮らしの中で、子ども・若者を見守り支える大人が現状や課題を共有する勉強会を定期的を開催し、地域全体で問題を捉え、解決する力を高める。

報告

TEDIC の事業報告会にて事業報告を実施
助成期間終了後に報告書を提出